別紙様式１（高）

令和８年度　学校経営計画表（定時制）

１　学校の現況

学校番号	19	学校名	県立水戸農業高等学校				課程	定時制（昼間）			学校長名		堤　祐二			
教頭名	大津　貴弘（定時制）			土屋　勝(全日制)			野々下　渉(全日制)				事務（室）長名		髙橋　芳子			
教職員数	教諭	58	養護教諭	2	常勤講師	12	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手	25	事務職員	6	技術職員等	34	計	150

生徒数	小学科	１年		２年		３年		４年		合計		合　計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数
	定時制農業科	8	6	3	1	6	3	１４	0	３１	１０	4

２　目指す学校像

心身の健全な発達を図り、
自主性･実践力に富む社会の有為な形成者としての人格の完成を目指し、
農業経営者･関連産業技術者を育成する。

一　知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校
一　生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校
一　魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校
一　体験学習等を通して、コミュニケーション能力を磨くことができる学校
一　地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともに、それらに開かれた学校

３　三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる人財の育成

教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	生徒一人一人の多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育活動において、体験的な学びから知識・技術を確実に身に付け、就職や進学を実現できる人財の育成
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動できる人財の育成

４　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習活動	落ち着いた態度で、真摯に学習に取り組む生徒が多い一方、理解に時間を費やしたり、表現に苦労したりする生徒が多い。	・個に応じたわかりやすい授業を心がけ、丁寧に粘り強く指導することを徹底する。
進路指導	・生徒の多様な進路希望に対応できる指導体制がやや不十分である。 ・基礎・基本の確実な定着が不十分であることから、就職試験に苦慮する生徒が多い。 ・進学や就職意欲に乏しい生徒がおり、高校卒業後在家庭やアルバイトをする生徒が数人いる。 ・望ましい職業観・勤労観について課題意識をもつことが苦手な生徒への指導体制がやや不十分である。	・各学年との連絡を密にし、１年から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・探究学習、ＬＨＲ等あらゆる機会を利用し、進路情報を適切に提供する。 ・WEB 学習サービス(スタサプ)を活用し、個別最適な学びを進めることで、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・進路講話やインターンシップ等により職業体験活動の参加数を高め、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。
生徒指導・支援	・身だしなみ、公共マナーへの遵守意識に課題があり、一部では校則を守ることについて意識が軽薄な生徒もうかがえる。	・立哨指導等を通し、校則や公共のルールやマナーを守ることの大切さを理解させる。 ・保護者との連携を密にし、基本的生活習慣を

別紙様式１（高）

		確実に身に付けさせる。
特別活動	・部活動の加入率が約３割と低い。 ・学校行事に対して生徒の参加意欲の低下がみられる。 ・キャリア・パスポートの形態が校内での統一がとれていないため、特別活動での活用割合が 3 割から 5 割と低い。	・部活動紹介や見学会等を実施し、部活動加入率を高める。 ・生徒会活動のみならず農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。 ・キャリア・パスポートの形態を統一し、学習活動や学校生活について自己評価を行うとともに、今後の学習活動や学校行事への参加意欲につなげる活動をホームルーム活動等で行う。
農業教育	・専門分野の学習内容に興味・関心が高まらない生徒が５割程度みられる。 ・農業クラブ活動、体験学習への参加意欲がやや低迷している。 ・資格取得の合格率が低い資格があり、全体的な底上げが必要である。	・体験学習や農業クラブの各種発表会・競技会への参加の意義を明確化するとともに、農業への興味・関心を高め、生徒の活動意欲の向上を図る。 ・資格取得を奨励するとともに、主体的な受験を促し、資格取得の活動を通じて、自ら学び自ら考えるなどの学習活動を行えるようにする。
働き方改革	・昨年度の職員全体の時間外在校等における「月平均時間」は 20 時間 48 分、「月平均 45 時間超過者割合」は 12.3%、「月平均 80 時間超過者割合」は 1.7%であった。 ・本校は、国内最大規模の農業高校であり、教職員の職種や校務分掌が多岐にわたっているため、学校全体として画一的	・学校全体として組織的に働き方改革を進める必要である。そのため委員会などの設置、学科や農業の部門ごとに業務内容の見直しが必要である。 ・ICT 活用により業務や会議の効率化をさら

	な勤務改善をすることは難しい。 ・ICT を活用した校務の効率化を図るため、Wi-Fi 環境のさらなる整備が必要である。	に進める。 ・教職員一人一人の勤務時間の削減に向けた意識改革の醸成と校務の効率化に務めるとともに、業務分担の平準化を図る必要がある。

５　中期的目標

１　生徒一人一人の実態に合わせた学習指導や進路指導を通して、生徒の学習意欲の向上を目的とした具体的な取り組みを実践する。 ２　生徒と寄り添う心の教育に重点を置き、生徒自身が自己実現に向けた学ぶ目的を発見し、生徒が主体的に家庭で学習し習慣化するための支援を行う。 ３　生命の尊重や規律ある生活、マナーの向上を含めた道徳教育を推進するとともに、生徒主体の計画・実践の中で、成就感が実感できる体験的な学習を実施する。また、ボランティア活動への積極的な参加を推進する。 ４　生徒一人一人の進路実現のため、４年間を通した計画的できめ細かな進路指導を推進する。 ５　地域に根ざした信頼と魅力のある学校づくりを推進するために、水農の長期的な未来の発展を目指したプロジェクト会議を設置する。 ６　農業各分野の実習や実践的・体験的な学習及び農業クラブ活動などを通して、生徒の主体的な学習を推進する。 ７　組織的な体制のもと、教職員の勤務時間を意識した働き方の実践を強化し、ICT の活用等による業務の効率化を推し進め中で、時間外在校等時間の縮減に努める。

６　本年度の重点目標

重点項目	重点目標
・基本的生活習慣を確実に身に付け、コミュニケーション能力の育成を図	・基本的生活習慣や規範意識を確実に身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の形成者として必要な資質の基礎を養う。 ・豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力の育成を図ることで、いじめ防止につながるような、より

別紙様式１（高）

る生徒指導体制の確立	良い人間関係の構築に努める。
・きめ細かな学習指導体制と系統的な進路指導体制の確立	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・生徒の関心・意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別状況を踏まえた学習評価を徹底する。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援・指導を行う。 ・生徒の進路希望実現のための適切な支援を行い、100％の進路実現を目指す。 ・就業体験、就農講話等を通して勤労観・職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。 ・各種資格取得に向けた取組を奨励する。
・特別活動及び部活動の充実	・成達会等の自主的活動を推進する。 ・定通体育大会への取組を通して、部活動への意欲を高めるとともに大会参加人数を増やす。休業日における部活動と勤労活動の日程のバランスを指導する。 ・特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通した振り返りを通して、自身の変容や 成長を自己評価する。その際、キャリア・パスポートを活用し、生徒自身が主体的に学びに向かう力を育み、生徒の自己実現にもつなげる。
・健康と安全教育の充実	・生徒の心身の健康に資するよう保護者、養護教諭、スクールカウンセラー等との連携を密にする。（特別支援教育専門家との連携） ・健康管理・交通安全・機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図る。 ・不審者対応などのマニュアルの点検を行う。 ・自然災害等に対する具体的な行動計画を作成し、実効性ある訓練を行う。 ・学校施設の安全点検と更なる整備・充実を図る。

別紙様式１（高）

・地域と連携した農業教育の充実	・農業探究活動やチャレンジプロジェクトへ取り組みを推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・近隣市町村の催事に積極的に生徒を派遣し、開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。 ・資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。 ・ＨＰ等を通して学校の教育活動を積極的に広報し、学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりを推進する。
・主体的･対話的で深い学びの実践（授業改善）	・教わる授業から主体的に学び授業へとつなげるため、ICT の活用や地域の特長を生かした地域社会との交流を通し、課題を見いだし解決策を講じるなど、自己の考え方を広げ「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。 ・「生徒による授業評価」の観点の１つである「授業満足度」の評価平均値が 3.0 以上（KPI）になる。
・働き方改革の実践	・学科や農業の部門ごとに業務内容を見直し、教職員の主体的な実践に向けた啓発、業務の効率化、業務量の削減に努めるための組織を設置する。 ・教職員の健康を増進するため、勤務時間を意識した働き方の実践を強化し、時間外在校等時間の縮減に努める。 ・完全退勤時間、定時退勤日を設定し、退勤時間の遵守を徹底する。